

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	3 / 1957 / 37-41
タイトル	青森海岸の植物群落(第2報)
著者名	青森高校生物部 植物班

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

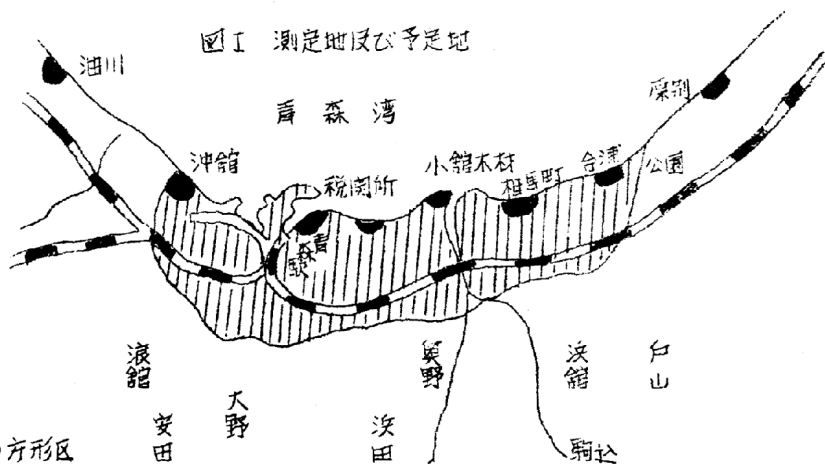
— 研究発表 —

青森海岸の植物群落 (第2報)

植物班

諸言

最近青森市の海岸地帯は諸々の建造物や事業のためにその自然の植物相が失われようとしてい
ます。そこで我々は青森市海岸の植物群落の調査を思いました。調査予定地は八ヶ所ですが、
今回は昨年調査した小館本村附近と税関支所附近の群落測定に今年調査した畑島町の群落測定を加
えて二報といたします。



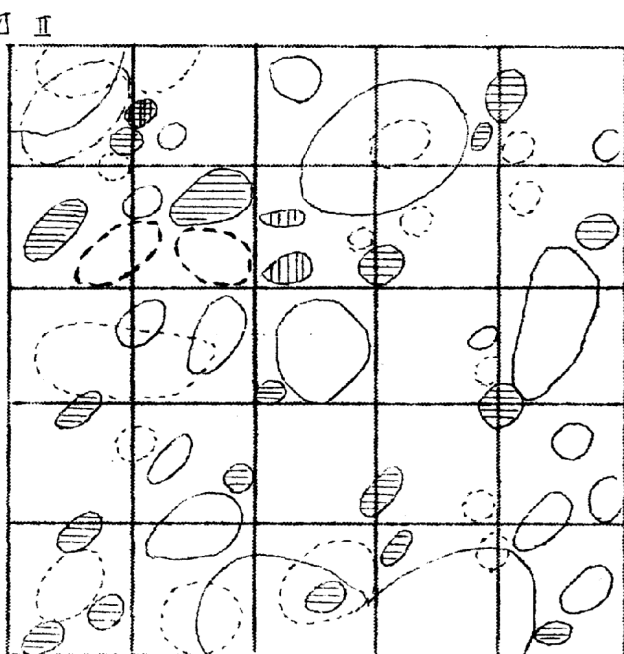
図I 測定地及び予定地

測定方法

一測定地内に二十個所の方形区

を設計、一方形区を $1m^2$ とし、それ
れを更に $20cm^2$ の小方形区に分け
その小方形区地積内に於いて、各種
植物の占める地積の割合を $1/2$ を
5, $1/2 \sim 1/4$ を4, $1/4 \sim 1/8$ を3, $1/8$
 $\sim 1/16$ を2, $1/16 \sim 1/32$ を1, それ以
下を+ (プラス) として、級度を示
しました。仮にこの級度記号5, 4
・3・2・1を数値と考へ、これを
平均した値をもつて、 $1m^2$ の方形区
の平均級度を表わしました。

又、この方形区内に於ける各種植物
の分布の有様を知るために級度率も
合せて調べました。これは図示方形
法によって確認しました。



表Ⅲ 税関支所附近の代表的群叢

タンポポ 群叢			シロツメクサ群叢			ニワヤナギ 群叢			アキメヒシバ群叢		
種 名	平均被度	頻度	種 名	平均被度	頻度	種 名	平均被度	頻度	種 名	平均被度	頻度
タンポポ	3.2	96	シロツメクサ	4.9	100	ニワヤナギ	4.2	100	アキメヒシバ	4.0	100
クサヨシ	1.5	72	ニワホコリ	0.6	64	シロツメクサ	0.5	36	タンポポ	2.0	68
ホソバハマアカサ	0.4	28	タンポポ	1.5	40	アキメヒシバ	0.5	36	シロツメクサ	1.5	52
ニワヤナギ	0.4	16	ギンギン	0.8	16	タンポポ	0.1	12	アカサ	1.2	48
			ニワヤナギ	0.2	8	ホソバハマアカサ	0.3	12	クサビエ	0.4	24
			アキメシバ	0.2	8	アカサ	0.1	8	ニワホコリ	0.2	24
						ヌカホ	0.2	8	ササノハ	0.2	20
									アレチノギク	0.1	12
									ニオイタテ	0.2	12
									コウホウシバ	+	4

表Ⅳ 相馬町附近の代表的群叢

シロツメクサ 群叢			ニワホコリ ニワヤナギ 群叢		
種 名	平均被度	頻度	種 名	平均被度	頻度
シロツメクサ	4.9	100	ニワホコリ	4.2	100
シバ	2.4	64	ニワヤナギ	4.1	100
ニワホコリ	1.4	60	カセクサ	1.3	40
ヨモギ	0.5	16	ハマエノゴロ	0.4	40
アレチノギク	0.1	16	アレチノギク	0.1	8
カセクサ	0.1	4	アカサ	+	8
オホバコ	0.1	4	ヨモギ	+	4
ハルノゲシ	+	8			
ハコベ	+	4			
ハマヨモギ	+	4			

今、更に各地区の植物群落の特性を明らかにするために、20の方形区での測定で得られた結果をもとにして、表Ⅳのような頻度を算出し、これを次のような頻度階級の記号で表わしました。

頻度率	頻度階級
81 ~ 100%	V
61 ~ 80%	IV
41 ~ 60%	III
21 ~ 40%	II
1 ~ 20%	I

Vの階級に属する種類は、この地域内に広く均等に分布し、Iの階級に属するものはこれに反して局所的にかたまって存在する種類です。

表V.

三地区の優占種の比較 (發度階級)											
種名	測定地			種名	測定地			種名	測定地		
	小	税	相		小	税	相		小	税	相
ニワマナギ	Ⅲ	Ⅴ	Ⅴ	ヌカボ			Ⅲ	ニオイタテ		Ⅱ	
シロツメクサ	Ⅲ	Ⅴ	Ⅲ	オオマツヨクサ	I	Ⅱ	I	No. 5.		Ⅱ	
ニワホコリ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	ギシギシ	I	Ⅱ	I	ハマエノゴロ			Ⅱ
タンポポ	Ⅲ	Ⅴ	Ⅱ	エノゴロクサ	I	Ⅱ	I	ハマヨモギ			Ⅱ
アキメヒシバ	Ⅱ	Ⅴ	I	シバ	I	I	I	カセクサ			Ⅱ
アカサ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅳ	オナモミ	Ⅱ		I	アキノヂシ	I	I	
アレチノギク	Ⅱ	Ⅲ	I	ハマヒルガオ	Ⅱ	I		ヒルガエリ	I		I
オホバコ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	スベリヒユ	I	Ⅱ		イケゴツギ			I
ヨモギ	I	I	Ⅲ	イイタビエ		Ⅱ	I	イヌタテ		I	I
ゴウボウシバ	Ⅲ			ハゴベ	I		Ⅱ	No. 4			
ホソバハマアカサ		Ⅲ		カニツリクサ	Ⅱ						

註. No. 4, No. 5 は不明

- 小 小館木材附近
- 税 税関支所附近
- 相 相馬町附近

この表Vによりますと小館木材附近ではニワマナギ、シロツメクサ、ニワホコリ、タンポポ、ゴウボウシバが均等に分布して、他と比べて非常に優占を示しています。これによるとシロツメクサ、ニワマナギ、ニワホコリ、タンポポ等青森市内では普通に見られる植物が多く、群叢を作っており、海岸特有の植物はゴウボウシバが優占を示し、その他わずかにハマヒルガオ、アレチノギクの群叢があるだけである。

次に、税関支所附近ではニワマナギ、シロツメクサ、タンポポ、アキメヒシバが特に優占種であることが分る。そして、それに次いで優占を示しているのは海岸性植物のホソバハマアカサ、アレチノギク等である。

相馬町ではニワマナギ、ニワホコリ、アカサが優占種であり、次いでオホバコ、ヨモギ、ヌカボ等がかなりの位置を占めている。海岸性植物は非常に劣っていてところどころにアレチノギク、ハマエノゴロ、ハマヨモギ等が見られるだけである。

考察及び結論

これら三地区の測定を合せて考えますと、シロツメクサ、ニワマナギ、ニワホコリ、タンポポ、アキメヒシバ、オホバコ等の普通に見られる植物が広く分布し、かつ多くの地権をも占めていることがわかり、アレチノギク、ハマヒルガオ、ホソバハマアカサ、ゴウボウシバ等の海岸特有の植物より優占的である。

このように今回の三地区の調査では、相馬町などは埋め立ての島に海岸特有の自然の植物相が失われたのではないかと考えますが、他の地区では、一般に我が国の代表的海岸植物の群叢は見られ

ない。それに反して青森府海岸に於ける植物群叢は海岸の相当な範囲まで普通に見られる植物の優性を占めている ----- ということより結論が得られませんでした。今後は多くの地区の測定を行い、土壌のP・H等も調べて理由を明らかにしたいと思います。

註

オー報に於いてN.O. Iとしたのはゴウボウシバ、エゾヌカホとしたのはニワホコリと改めた。

参考文献

植物群落測定法 (生物学講座)